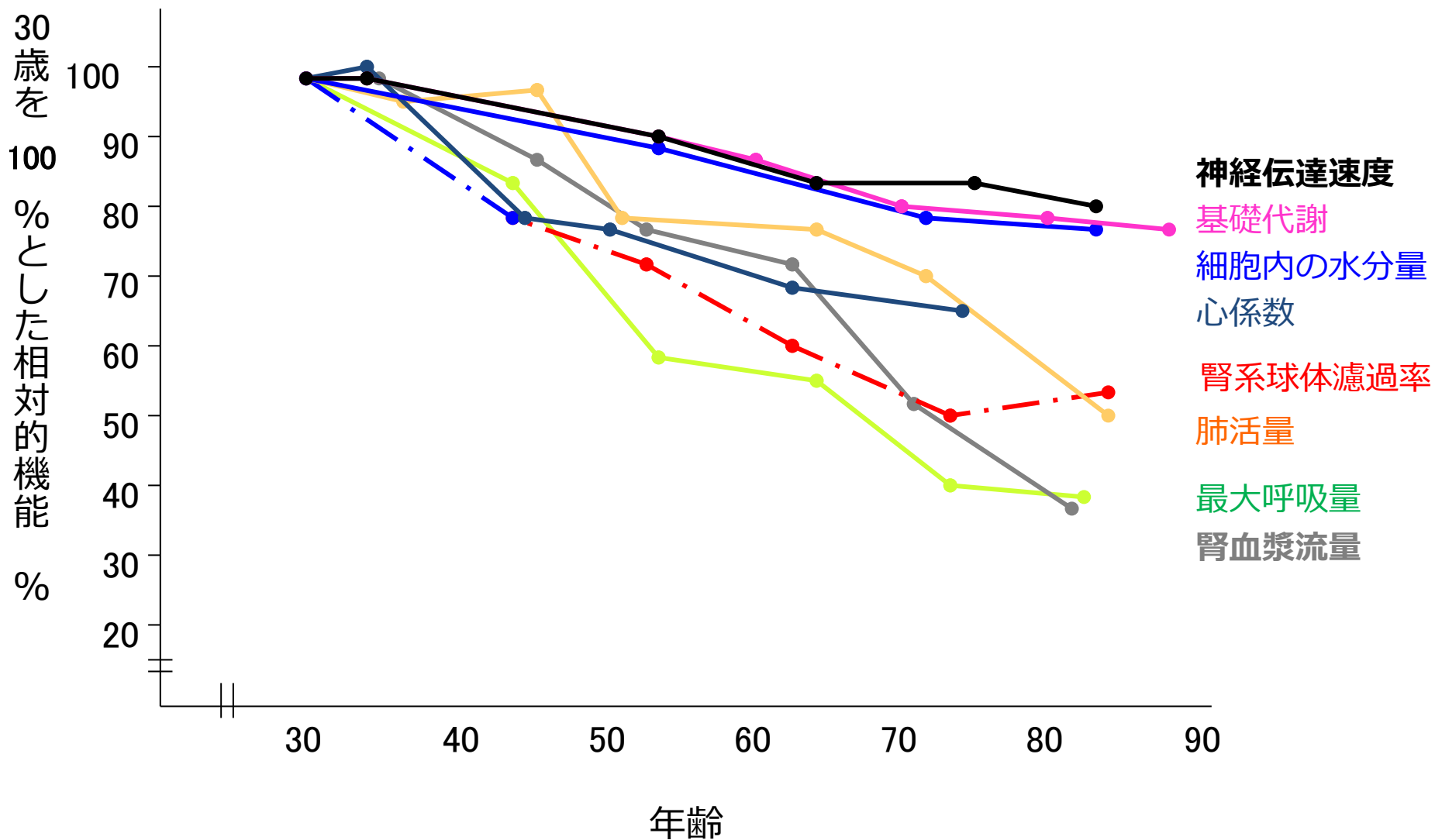


加齢に伴う身体・精神機能の低下 による各種作業への影響

千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学
能川和浩

加齢による生理機能の減退



定年延長にともなう 産業保健的課題（疾患）

死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）

| 年 齢 | 第1位 | | | 第2位 | | | 第3位 | | |
|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-----------|-------|------|
| | 死 因 | 死亡数 | 死亡率 | 死 因 | 死亡数 | 死亡率 | 死 因 | 死亡数 | 死亡率 |
| 40～44 | 悪性新生物 | 2 671 | 28.0 | 自 殺 | 1 737 | 18.2 | 心 疾 患 | 1 088 | 11.4 |
| 45～49 | 悪性新生物 | 4 750 | 52.0 | 自 殺 | 1 881 | 20.6 | 心 疾 患 | 1 815 | 19.9 |
| 50～54 | 悪性新生物 | 7 689 | 98.8 | 心 疾 患 | 2 467 | 31.7 | 自 殺 | 1 846 | 23.7 |
| 55～59 | 悪性新生物 | 12 599 | 168.8 | 心 疾 患 | 3 479 | 46.6 | 脳 血 管 疾 患 | 2 147 | 28.8 |
| 60～64 | 悪性新生物 | 23 331 | 288.2 | 心 疾 患 | 5 817 | 71.9 | 脳 血 管 疾 患 | 3 320 | 41.0 |
| 65～69 | 悪性新生物 | 45 977 | 449.7 | 心 疾 患 | 11 267 | 110.2 | 脳 血 管 疾 患 | 6 265 | 61.3 |

50歳から急激に死亡数
が増加している

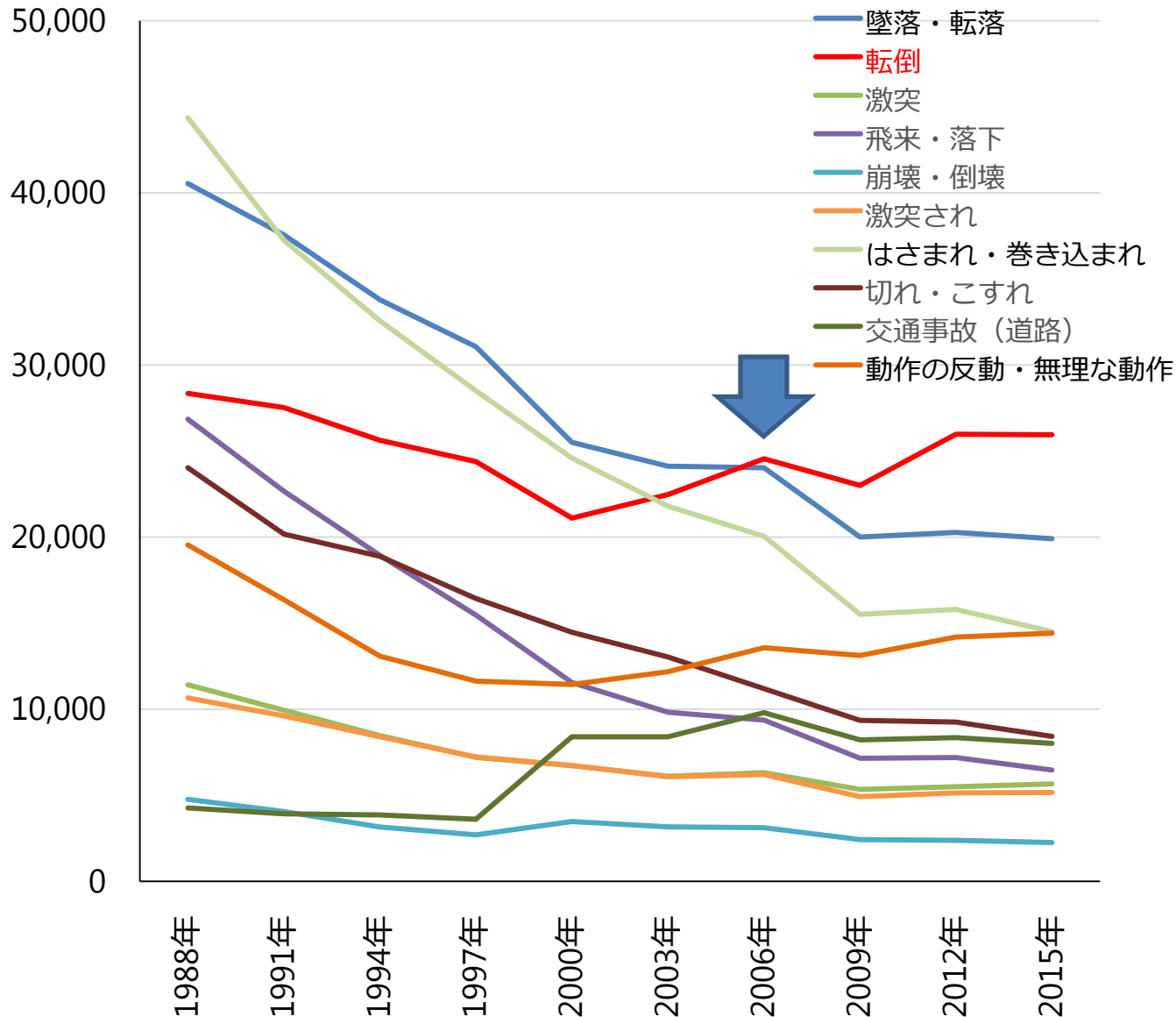
動脈硬化を主な原因とする
疾患の増加
⇒生活習慣病の関与

高年齢労働者における特徴

- 訓練によって得た能力（知識・技能は、長期間使用するほど維持できる期間が長い。）
- 経験と技能の蓄積は熟練を構成し、より高度で複合的な作業能力を生む。
- 身体疾患（生活習慣病、がんなど）への対応も重要。
- 身体／認知機能や疾患の個人差が大きい

高齢者就労の問題点（労働災害）

労働災害の発生状況 年次推移



(人)

資料：「厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課労働災害発生状況」より

身体機能・認知機能低下による 作業上の注意

- 労働災害
（転倒、墜落／転落、はさまれ／巻き込まれなど）
転倒の原因：「滑り」「つまずき」「踏み外し」
- 熱中症（熱への順化能低下、脱水がおきやすい）
- 腰痛（筋力、柔軟性の低下）
- 交通事故（視覚の低下、認知機能の低下）

など

機能低下に対する 作業における配慮（例）

- 視力、薄明順応 ⇒ 視覚環境の整備
（文字の大きさ、照度を確保）
- 聴力 ⇒ 聴覚環境の整備
（背景騒音を減らす、聞きやすい音程に）
- 筋力、柔軟性 ⇒ 準備体操の実施、作業負荷の軽減

作業環境の整備、周囲の配慮・支援、予防のための
体力づくりといった観点から対応するようにする



作業環境管理・作業管理・健康管理の視点は不変